

コミュニティ・スクールだより

金沢市立兼六小学校
コミュニティ・スクール事務局
令和6年5月15日発行

令和6年度第1回学校運営協議会が行われました

向暑の候、地域の皆様、保護者の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動にご理解、ご協力を賜り、ありがとうございます。

さて、兼六小学校では、5月7日（火）に第1回学校運営協議会を、開催いたしました。



令和6年度学校運営協議会委員の皆様です

安宅 雅夫（材木公民館 館長）	足立 章江（兼六小地域コーディネーター代表）
上坂 達朗（材木地区町会連合会 会長）	大溝 了庸（兼六小学校 学校医）
大茂 勝（兼六中学校 校長）	川端 孝法（兼六小学校育友会 会長）
塩谷 真一郎（味噌蔵町公民館 館長）	砂走 勇紀（まことこども園 園長）
谷 泰徳（味噌蔵地区見守りボランティア代表）	筒井 康徳（味噌蔵地区育成委員会 委員長）
外山 郁生（味噌蔵地区町会連合会 会長）	端 博史（金沢文芸館 館長）★
東 良光（金沢中署街頭交通推進隊 隊長）	松原 靖子（兼六小学校 校長）
割崎 泰（材木地区少年連盟 会長）	

★は学校運営協議会会長

（敬称略・五十音）

まず、校長より本校の現状や今年度の学校運営基本方針について、教務主任より今年度の各分野での取組について、説明をさせていただきました。

- ・学習面では、学習の基礎の定着に向け、あたりまえ5が確実に身につくようにする。
- ・地域との関わりを大切に、見学や体験などの魅力ある活動を通して、地域や金沢の伝統、文化に親しみ、そのよさに気づく学習を進めていく。
- ・生徒指導では、友達とのよい関わりの機会を作り出すエンカウンター活動（兼六タイム）に取り組んでいる。
- ・健康面では生活習慣と歯の健康に課題が見られるので、家庭と連携して取り組んでいきたい。

- ・特別活動では縦割り活動を充実させる。先日の春の遠足では、低学年に優しく接する高学年の姿をたくさん見ることができた。
- ・体力面では持久力に課題が見られるので、水泳、マラソン、縄跳びなどに目当てを持って取り組ませたい。

報告を受け、委員の皆様から様々なご意見をいただきました。一部を掲載させていただきます。

学校生活

- ・縦割り遠足のような活動はとてもよい取組である。人間性を育てる機会となる。
最近の子どもたちはコミュニケーション力が弱いように感じるので、コミュニケーション力や人間力を育ててほしい。
- ・「挑戦」というテーマはすばらしい。自ら学ぶことそのものである。挑戦しながら、限界や危険を知ることも大事である。

登下校

- ・登下校時の挨拶は、昨年度末はよくなっていたが、新年度が始まってから元気がない。挨拶が返ってこないこともある。
- ・低学年は元気な挨拶が返ってきてうれしい。高学年もしっかりしてほしい。
- ・路側帯の反対側を歩いたり、車が近づいてきても路上ではしゃいでいたりする姿が見られる。事故が起きてからでは遅い。注意が必要である。
- ・安全帽子をかぶっていない高学年が多い。かぶることが安全につながる。
- ・来年度、校舎の移転を控えている。移転後は、一部通学路が変更になる。大半の児童が大通りを渡ることになる。通学路の安全を確保しておく必要がある。

地域

- ・兼六中学校でも、あいさつを大切にしている。また、言葉を大事にするよう指導をしている。
- ・少連では、経験・体験を積み上げていくことが大切だと考えている。様々なイベントを企画しているが、参加者が少ないのが残念。
- ・子ども達にリアルな感動を味わわせたい。そのためにも保護者や地域が連携して取り組むことが大切である。
- ・1月の地震により、地域も保護者も防災に関する意識が高まっている。防災に関する情報で公表できるものがあるようなら、公表することで安心できるのではないかな。

また、「学校の応援団」として学校を支える言葉を多くいただき、励みになりました。顔を合わせて、有意義な話し合いができました。

地域の皆様、今後とも兼六小学校の子供たちをよろしく願いいたします。